広報

しょうぼう上球磨

No. 77

平成25年4月

火災・救急・救助は局番なしの **119** ばん

携帯電話からも、局番なしの **119** ばん

（GPS 機能付携帯から、１１９番通報すると、災害地点が表示されてすぐ場所が確認できます。）

※休日当番医の問い合わせは、**42-3181** 番へ！災害の問い合わせは、**42-3000** 番へ！
その他は、各課のダイヤルインへ！

総務課 42-3191・予防課 42-3184・通信課 42-3181
消防課 42-3189・企画課 42-3183

◆ 発 行 ◆
上球磨消防組合
代　表　TEL 42-3181
東分署　TEL 47-8119
http://www.union.kamikuma-fire.lg.jp/

りゅうきんかで夜間避難訓練が行われました！

幼年消防クラブ員 416 名が参加して 幼年消防大会開催！

- 財政事情の公表
- 消防無線がデジタル化されます
- 高温注意情報に注意
- あさぎり中に少年消防クラブ結成

火災・救急・救助は
☎ 119

財政事情の公表

■上球磨消防組合告示第 1 号

地方自治法第２４３条の３第１項および上球磨消防組合財政事情の公表に関する条例の規定により、財政事情を次のとおり公表する。

平成 25 年　1 月　4 日　　上球磨消防組合　組合長　松　本　照　彦

1．平成２３年度歳入歳出決算状況

（1）　歳　入　　（単位：千円）

款　別	予算額 (A)	補正額 (B)	合　計 (C)	収　入　済　額　(D)					差引残高 (C)－(D)	収入率 (%)
				4～6月	7～9月	10～12月	1月～5月	計		
1 分担金及び負担金	570,607	△ 6,957	563,650	285,301	140,500	137,650	284	563,735	△ 85	100.0%
2 使用料及び手数料	200	0	200	16	56	56	10	138	62	69.0%
3 国庫支出金	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0%
4 県支出金	45	558	603	0	0	0	600	600	3	99.5%
5 財産収入	27	0	27	0	0	11	16	27	0	100.0%
6 寄附金	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0%
7 繰入金	10,000	△ 1,600	8,400	0	0	0	8,400	8,400	0	100.0%
8 繰越金	4,000	0	4,000	4,000	0	0	0	4,000	0	100.0%
9 諸収入	4,619	2,114	6,733	0	27	216	6,946	7,189	△ 456	106.8%
10 組合債	8,000	7,900	15,900	0	0	0	15,900	15,900	0	100.0%
歳入合計	597,500	2,015	599,515	289,317	140,583	137,933	32,156	599,989	△ 474	100.1%

（2）　歳　出

款　別	予算額 (A)	補正額 (B)	合　計 (C)	支　出　済　額　(D)					差引残高 (C)－(D)	支出率 (%)
				4～6月	7～9月	10～12月	1月～5月	計		
1 議会費	361	0	361	11	2	22	298	333	28	92.2%
2 総務費	39,253	△ 1,963	37,290	5,979	7,015	7,263	14,247	34,504	2,786	92.5%
3 消防費	538,962	3,978	542,940	132,305	108,897	138,550	120,885	500,637	42,303	92.2%
4 公債費	17,645	0	17,645	0	8,843	0	8,802	17,645	0	100.0%
5 諸支出金	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0%
6 予備費	1,278	0	1,278	0	0	0	0	0	1,278	0.0%
歳出合計	597,500	2,015	599,515	138,295	124,757	145,835	144,232	553,119	46,396	92.3%

2．組合財産の状況

種　類	数　量
土　地	上球磨消防本部消防署　4,717.00㎡　東分署　1,698㎡　計　6,415㎡
建　物	本部庁舎　999.29㎡　車庫及び資料室　357.73㎡　倉庫　54.79㎡　東分署　251.24㎡
車　両	指令車、タンク１号車、タンク２号車、救助工作車、救急車１、救急車２、救急車３（予備車）、マイクロバス、資機材搬送車、指導広報車、ポンプ車（予備車）、東分署ポンプ車、東分署救急車、東分署広報車

3．平成２４年度予算執行状況　（平成 24 年４月～９月）

（1）　歳　入　　（単位：千円）

款　別	予算額 (A)	補正額 (B)	合　計 (C)	収　入　済　額　(D)			差引残高 (C)－(D)	収入率 (%)
				4～6月	7～9月	計		
1 分担金及び負担金	583,885	△ 16,267	547,618	284,645	139,500	424,145	139,740	75.2%
2 使用料及び手数料	300	0	300	45	190	235	65	78.3%
3 国庫支出金	1	0	1	0	0	0	1	0.0%
4 県支出金	41	0	41	0	0	0	41	0.0%
5 財産収入	71	200	271	0	80	80	△ 91	112.7%
6 寄附金	1	0	1	0	0	0	1	0.0%
7 繰入金	19,000	0	19,000	0	0	0	19,000	0.0%
8 繰越金	4,000	0	4,000	4,000	0	4,000	0	100.0%
9 諸収入	200	1,311	1,511	3	1,334	1,337	△ 1,137	668.5%
10 組合債	1	17,699	17,700	0	0	0	1	0.0%
歳入合計	587,500	2,943	590,443	288,693	141,104	429,797	157,621	73.2%

（2）　歳　出

款　別	予算額 (A)	補正額 (B)	合　計 (C)	支　出　済　額　(D)			差引残高 (C)－(D)	支出率 (%)
				4～6月	7～9月	計		
1 議会費	364	0	364	10	3	13	351	3.6%
2 総務費	48,611	1,632	50,243	5,546	8,157	13,703	34,908	27.3%
3 消防費	519,643	1,311	520,954	134,531	100,204	234,735	284,908	45.1%
4 公債費	17,565	0	17,565	0	8,784	8,784	8,781	50.0%
5 諸支出金	1	0	1	0	0	0	1	0.0%
6 予備費	1,316	0	1,316	0	0	0	1,316	0.0%
歳出合計	587,500	2,943	590,443	140,087	117,148	257,235	330,265	43.6%

消防長挨拶

消防長　澤田光徳

春暖の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、四月一日付けをもまして上球磨消防組合の消防長に就任いたしました澤田光徳でございます。

日頃から当組合消防行政につきましては、格別のご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

当消防本部も開設から三十九年目を向かえ、諸先輩方々が掲げてきた「地域に密着した、住民に信頼される消防」を目指し、重責ではありますが、職員一同力を合わせて専心努力していく所存であります。

私は、昭和四十九年十月の本署開設以来、現場一筋で職務活動して参りました。その間さまざまな災害に出動、従事してきましたが、平成二十三年三月の「東日本大震災」への出動はこれまでに経験したことのない災害での活動でありました。また、昨年の九州北部豪雨災害においても出動し、活動を行いましたが、近年の豪雨災害の大規模広域化を見て更なる出動態勢、装備等の充実また関係各機関等との連携、協力体制の強化が必要と感じたところであります。

当消防本部は六五名の少数精鋭です。住民の皆様の生命・身体・財産を守るためには、地域の消防団との更なる協力体制、そして地域に整備が進んでいる自主防災組織等との連携、また関係機関との協力が必要不可欠と考えます。

これからも職員一同、住民の皆様の安心・安全の暮らしの為に職務に取り組む所存であります。

今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、就任の挨拶といたします。

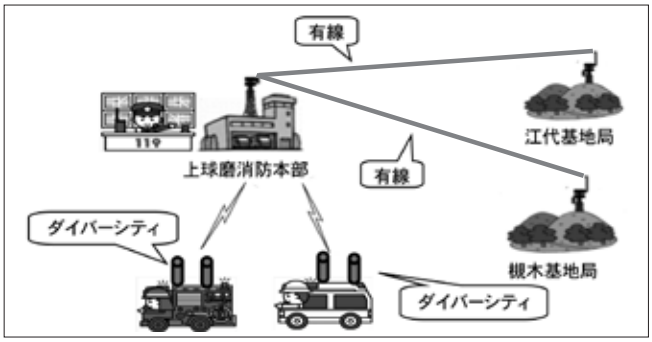
消防救急デジタル無線の整備について

今日、私たちの生活の中で様々なデジタル化が進んでいます。通信分野においても、携帯電話や放送など電波の有効利用を図るとともに、データ伝送などによる高度な利用が行われています。家庭用テレビの地上デジタル放送への完全移行も、その一例です。

消防救急無線においては、現在アナログ通信方式により、音声主体の運用が行われていますが、二〇〇八年五月、電波法二十六条に基づく周波数割当計画の改正があり、アナログ周波数の使用期限が二〇一六年（平成二十八年）五月三十一日までとされました。このため、消防救急無線においても、デジタル化を進めていくことが必要となっています。

消防救急無線とは、消防本部から出動中の消防車・救急車や隊員、またそのそれぞれが相互に連絡を取り合う無線装置です。現在のシステムは150MHz帯アナログ無線ですが、変更後は260MHz帯デジタル無線となります。

デジタル化の効果を簡単にまとめると、①音声を信号に変換するので秘話性能が格段に向上し一般的な受信機では傍受できなくなり、機密情報、個人のプライバシーを守ることができます。消防救急業務の視点では、大変重要なことです。②周波数帯域をナロー化（1チャンネルに使用する周波数の帯域幅を狭くすること）できるため使用チャネルの増波が可能となり、災害活動毎に専用チャンネルを使うことで業務効率化、正確性を向上させます。③データ伝送が可能となり、さまざまなデジタル機器との連係による支援機能の高度化が図れます。また、確実な情報伝達が可能となり、活動の効率化、高度化に繋がります。



全国すべての消防本部において、デジタル化に向けて設計・整備等の作業が急務であり、当消防本部でも、平成二十四年十二月二十八日城南ブロック消防広域化協議会の解散に伴い、単独整備で取り組んでいます。

今後の計画として、平成二十五年度で実施設計を作成し、平成二十六年及び二十七年度に機器等の整備を行う予定です。

ガソリンの運搬について

灯油用の１８リットルポリ容器でガソリンを運搬することはできません。

ガソリンの運搬は、プラスチック容器の場合、最大容積１０リットル以下の容器で行うよう決められています。しかし、１０リットル以下のプラスチック容器であっても、ガソリン用としての性能試験をクリアしたものでなければ、運搬容器として使用することはできません。ガソリン用として性能試験をクリアした金属製容器の使用をお願いします。

ポリ容器にガソリンを入れると、ガソリンによって容器が侵され、変形し、漏れるおそれがあります。また、ガソリンは非常に揮発しやすく、キャップ部分が劣化して外れやすくなっている場合には、圧力に耐えられなくなって蓋が外れ、ガソリン蒸気が漏れる危険性があります。さらに、ポリ容器は、ガソリンとの摩擦で静電気が溜まりやすく、ポリ容器のフタを開けた瞬間に放電し、ガソリン蒸気に引火、火災になった事例もあります。

飲料用のペットボトル（500 ミリリットルなど）やエンジンオイル缶、一斗缶などの金属製容器をガソリンの運搬容器として使用できません。

ガソリン用として性能試験をクリアした運搬容器でなければ使用できません。ペットボトルは飲料用液体の容器であり、ガソリンの運搬容器としての性能試験をクリアしていないうえ、ガソリンによって変形・亀裂して漏えいを起こす可能性があります。また、エンジンオイル缶や一斗缶などは金属製容器ではありますが、金属製容器ならば何でも良いわけではなく、ガソリン用として性能試験をクリアした金属製容器であることが必要です。

ガソリンを運搬する場合は、危険物保安技術協会の性能試験をクリアした金属製容器を推奨します。性能試験をクリアした運搬容器には、「試験確認済証ＫＨＫ危険物保安技術協会」の表示がされています。なお、この表示のない運搬容器であっても、自主的に性能試験を行っている場合も考えられますが、通常、性能試験をクリアした運搬容器には、「試験確認済証」や「認定品」、「推奨品」などの表示が付されていますので、これらの表示がある運搬容器の使用をお勧めします。

ガソリン携行缶への個人での給油はできません！

ガソリン携行缶の使用上の不注意で引火事故が全国で発生しています。ガソリンは引火点が低く、静電気や電気火花等により容易に火災を起こす危険性を有しています。ガソリン携行缶をご使用になる方は、危機管理を十分にご理解の上、正しく安全な取り扱いをお願いします。

○消防法により、セルフスタンドでの携行缶への給油は禁止されています。資格を持った従業員でなければ給油できません。
○携行缶の規程容量以上は絶対に入れてはいけません。
○ガソリン専用の金属製携行缶が必要で、ポリタンクなど他の容器は消防法により禁止されています。
○ガソリンは長期間保管すると品質が劣化し、燃料として使用できなくなります。早めに使い切りましょう。
○車に搭載できるのは、最大容量２０Ｌまでです。
○携行缶が空になっても、火気は絶対近づけてはいけません。
○以上のことに十分注意して、引火事故が発生しないように、ご使用をお願いします。

八代農業高校泉分校からインターンシップに！

八代農業高校泉分校から一名の生徒がインターンシップ（職場体験）に来てくれました。郡市外の高校ですが、あさぎり町深田出身という事で地元消防本部を選んで来てくれました。五日間の日程で放水訓練、救助訓練、救急処置訓練など多くの訓練を行い、消防業務について学んでくれました。

★消防署の職場体験を選んだ理由は？

「私は小さいころから消防署の仕事に興味がありました。また一週間という長い期間で消防の体験ができるのはとても貴重だと感じましたし、今後の学校活動で応急手当など役立てたいと思います」

★職場体験を終えての感想をお願いします！

「今回様々な体験をしましたが、重い装備を装着したり体を使った訓練などありました。しかし、この五日間は私にとって、とても楽しくまた体力づくりにとても役立ちました」

★最後に将来の夢を教えてください！

「鉄道の専門学校に行き、ＪＲ九州に就職したいです。消防署は…体力的に大変だと感じました。しかし、この職場体験で学んだ応急処置などは普段の生活でも役立つので大変勉強になりました」

八代農業高校泉分校
椎葉　悠太

消防功労者表彰！

湯前町下染田　田村博司さん、サカ子さんご夫婦を初期消火功労者として表彰を行いました。

田村さんご夫婦は自宅の隣りから発生した建物火災で、地元消防団と協力して消火作業を行い、的確な１１９番通報で、火災の延焼拡大を防止された功績により、感謝状を贈りました。１１９番通報をしたサカ子さんは「我が家のすぐ隣からの出火でびっくりしました」「１１９番通報は初めてでしたが、消防署の方が落ち着いて対応していただきました」「我が家への延焼を防いでいただき消防団員の皆さんには感謝しています」と述べられました。

火災の延焼防止にご協力いただきました皆さまに、紙面を以って心よりお礼申し上げます。

熊本県救急教育セミナーを開催しました

第４４回熊本県救急教育セミナーを、あさぎり町深田「せきれい館」で開催しました。

熊本県メディカルコントロール協議会、上球磨メディカルコントロール協議会の共催により行われ、県内消防職員１５７名、医療関係者など３７名が聴講されました。

セミナーテーマ「ＢＬＳ普及に対する現状と取組み」のもと、鹿児島県川内市医師会立市民病院麻酔科長　川上雅之医師の基調講演、上球磨消防署西祐一救急救命士はじめ熊本県内でＢＬＳ普及に活躍中の諸団体の出演者の皆様から貴重な講演を賜り、セミナーは盛会の後終了しました。

※ BLS とは、Basic Life Support（一次救命処置）の略称です。一次救命処置とは 、急に倒れたり、窒息を起こした人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のことです。

NEWS 上球磨

幼年消防大会・消防職員意見発表会開催！

昨年、秋の火災予防運動期間中に多良木町『えびす広場』一帯において、第一八回上球磨地域幼年消防大会を開催しました。

この大会は、幼年期における防火意識の高揚と幼年消防クラブ員であることの認識を深めるとともに、地域の防火・防災の安全確保、家庭内における火災予防及び防火思想の普及向上を目的として、隔年で実施しています。

上球磨消防本部管内の一八クラブの幼年消防クラブ員四一六名と関係者併せて五〇〇余名が参加して盛会に行われました。

開会式では、水上村湯山保育所幼年消防クラブ代表の六名で「お父さんお母さん先生方の教えを守ります」「火遊びはしません」と誓いの言葉発表の後、岩野保育所のクラブ員による、元気で機敏な通常点検が披露されました。指揮者の力田煌（きら）君の大きな元気な号令に父母や見学者から大きな拍手が贈られました。

開会式終了後、会場設定されたミニ消防車試乗や腕用ポンプ放水体験、煙体験、救助ロープによるロープ渡りなどのアトラクションを楽しみました。また交流館「石倉」では、県消防職員意見発表会の代表選考会を兼ねた意見発表会が併催されました。各町村長による審査が行われ、「メンタルトラウマ」と題して、発表した中嶋消防士が代表として選出されました。発表者と発表テーマは次の通りです。

代表　中嶋耕輔「メンタルトラウマ」
岩村将吾「地域社会と歩む」
木本和寛「住民を守る強い絆」
廣田裕介「防災への意識」

感謝状の贈呈！

湯前町野中田3区で発生した建物火災で、初期消火と被災者を煙が充満した屋内から搬出して、延焼拡大を防いだ功績で、元消防団員三名の方の消防功労者表彰を行いました。

防災無線の放送で火災を知り、野中田1区から駆けつけた深水俊市さん（六九歳）は「室内は煙が充満した状態で、被災者の搬出は、三人とも消防団ＯＢだったため、冷静な判断で対応できたと思います」と、鍵のかかったサッシのガラス窓を消火器の底で割って、同地区の山本福義さん（六四歳）財部正美さん（五八歳）の三人で屋内に進入し、被災者を救出されたそうです。この功績に対しまして、消防組合では、感謝状と記念品の贈呈を行いました。職員一同、住民の皆様のご協力に感謝申し上げます。

春の火災予防期間中に夜間避難訓練が実施されました

今年２月の長崎の老人ホームでは、加湿器の加熱が火災の原因となり、４名のお年寄りが一酸化炭素中毒で亡くなり搬送された病院で１名が亡くなられました。まだ痛ましい惨事として記憶に新しいことと思います。

３月６日あさぎり町特別養護老人ホームりゅうきんかでは、寝室の加湿器から出火したとの想定で、夜間避難訓練が行われました。

職員や地元消防団員も参加して車椅子での避難誘導や、担架による救出訓練が行われました。訓練の後は職員を対象に消火器による消火訓練が行われました。

長崎の老人ホーム火災の事故原因となった加湿器はリコール製品だったそうです。ご自宅の加湿器のご確認をお願いします。

メーカーからのリコールについては、ＴＤＫ株式会社の下記のホームページでご確認してください！

http://www.tdk.co.jp/information/humidifier/

平成 10 年度に製造・販売スチーム加湿器 KS-500H、KS-300W ヒーター部の問題により最悪の場合、発煙・発火に至る恐れがあるそうです。

あさぎり中「少年消防クラブ」が放水競技に出場しました！

あさぎり中学校統合に伴い新しく再編された少年消防クラブが、「あさぎり町少年消防クラブ」として、新しく結成されました。全校生徒五〇三人の中から、希望を募り六四名の入隊希望で待望の結成となりました。

一月五日のあさぎり町消防団出初式には、通常点検に二隊、放水競技に二チームが各地区の消防団とともに出場しました。

元気の良い号令と試技に、保護者や見物の人たちからは、拍手喝采が贈られました。隊長の

杉田大地君（上下永里、野球部）は「四回の練習でしたが、皆さんの応援のおかげで練習よりもうまく出来ました」紅一点、唯一の女子クラブ員山口裟貴さん（免田吉井、卓球部）は「いろんなことが経験できて楽しいです」入隊した動機は、妹さんが吉井保育園幼年消防クラブだったそうで、興味があって希望をされたそうです。

谷水悟校長からは「消防クラブ員に限らず、全校生徒で防火意識を高めて、防火を呼びかける活動をして行きたい」と抱負を聞かせていただきました。今後のご活躍を期待します。

高温注意情報に注意！

気象庁により、7月初旬から9月下旬まで「高温注意情報」が発表されています。熱中症への注意を呼びかけるためのもので、最高気温が35度を超えると予想される都道府県に発表されます。

数日前の段階で高温を予想した場合には、「高温に関する気象情報」を発表し、前日の段階では、複数の都道府県をまとめた地方に「九州地方高温注意情報」が発表されます。当日の段階では、対象となる都道府県に「熊本県高温注意情報」として「30度を超える時間帯は、12時ごろから15時ごろまで」と時系列予報で発表されます。

日中お出かけの際や、高齢者、乳幼児、体調のすぐれない方がおられるご家庭などにおいては、水分塩分をこまめに補給し、カーテンで強い日差しを遮るなど、冷房を適切に利用し室温に留意して、熱中症への注意をお願いします。

昨年中の上球磨管内の熱中症による搬送人員は、男性12名、女性15名の27名の方が救急車で搬送されました。昨年の20名から７名の増となっています。年齢別では75歳以上のお年寄りの方が16名と断トツになっています。ほとんどが軽症で犠牲者は出ていませんが、家族や周りの方が次のような異変、熱中症の症状に気付くことが大切となります。

熱失神：血圧の低下、めまい、失神、顔面蒼白など。

熱疲労：脱水症状によるめまい、頭痛、吐き気など。

熱痙攣：水分補給が足りず血液の塩分が不足し、足や腕、腹部などに痛みとともに痙攣が起きる。

熱射病：体温上昇、頭痛、めまい、失神、吐き気、嘔吐。血圧の低下など。

重度の熱中症：意識障害、過呼吸、ショック症状。全身の臓器の障害で死に至ることも。

子供の熱中症：新生児は体温の調節が未熟です。暑い時期は気温に注意しましょう。**乳児**の外出は午前中や夕方など涼しい時間帯にしましょう。ベビーカーは地表からの熱を受けやすいので注意が必要です。ベビーカーの温度は大人の顔の位置の温度より、約３～４度高く真夏で外気が33度の時は37度と、かなり高温になります。レインカバーは通気性が悪く保温力も高いので、カバーを開けたりして時々換気しましょう。**幼児**は言葉がしっかり話せませんので、親が注意して確認することが必要です。

もし熱中症の症状が現れましたら、すぐに１１９番（携帯電話からでも局番なしの１１９番）で「住所・電話番号」を的確に通報し救急車を呼んでください。